

サロン・あべの

<サロン・あべの> NO. 26 昭和63年 8月28日(日) 発行

△サロン・あべの▽7月の出会い

↑ すまいの工夫 ↓ いろいろ ↓

すべての人々の生活の基本は「衣・食・住」であり、快適で、安全で、機能的な住いへの要求は健全者にとっても、身体に障害を持つ人にとっても等しく存在している。

とりわけ身体障害者にとって、住居の改善ほど必要なことはない。

一口に身体障害者といっても、障害の部位、度合には個人差が大きく、個人対応となるのもいたしかたないかも知れないが、障害に合った住居に住めれば、その人の障害度も半減したといっても過言ではないだろう。現に、身体障害者の四〇%が住宅改造の希望を持っている。

特に日本家屋は、段差がいたる所にあり住みにくい。改造する際、障害者本人にとって行動範囲が拡がる

か、家族や介護する人が介護する時にしやすく、使いやすくなる、か等を練る必要がある。

住宅改造は、大きな金額がかかることであり、改造後使い勝手が悪いからと、おいそれ、やりなおすことは出来ないの、慎重の上にも慎重に計画を立ててしなければならない。

今、老人住宅、障害者住宅等は、住宅メーカーが試案やモデル住宅を造り、宣伝にこれ努めているが、これは相当の経費がかかる。お金さえ出せば、ボタン一つで何んでも出来る時代にはなっている。

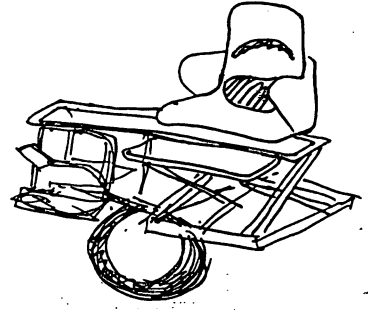
改造にしろ、モデル住宅にしても先立つものがなければ高嶺の花。そこで今日は、お金をつかわない

で、頭をつかって、チエを出し、いっぱいのアイデアで、快適な生活をしているお話を聞かせていただき、お互いの参考になれば…。題して「すまいの工夫 いろいろ」

上平幸雄氏の司会で、参加者四人の方々から、グッドアイデアのかずかずを聞いた。

■身のまわり

- ・アコーデオンカーテンの利用
 - ・ふとんのあげおろしの工夫
 - ・電源のスイッチ、コンセントの高さ、位置の変更
 - ・スイッチの紐を長くする
 - ・長い柄のプッシュ式水道栓
 - ・プッシュ式コンロ
 - ・二段重ねのたんすを重ねないで前後に置き、季節で前と後を入れ替える
 - ・コマと紐でカーテンの開閉をスムーズにする
- 風呂
- ・手すりを付ける
 - ・湯舟から追い炊き出来る器具のとりつけ



・腰をかけたまま入浴できる「バスマン」(図)のとりつけ

■トイレ

- ・ウォシユレットに変える
- ・滑らない床に張替
- ・手すりを付ける

「すまいの工夫 いろいろ」について、読者の方からも、こんな工夫している、こんなユニークなアイデアがある、こうすれば便利とお寄せいたゞいております。

(二頁〜四頁)

なお府営の車イス住宅にお住いの方から出されました個々の使い勝手につきましては、次号に改めていろいろご報告いたします。

暮らしとのいい関係をつくっていく。



私のマンション改造

上田 敏

私達は、六畳の和室、九畳のキッチン、それにバス、トイレ。一LDKの一般の賃貸マンションに住んでいます。

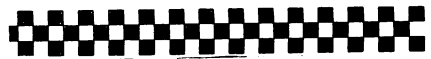
あまり、改造が許されないもので、少しだけ改造させていただきました。

改造の内容は、次の通りです。

二人共に、家の中でも、車椅子で生活をしていきます。

1. ドアについて

普通のドアのノブでは、回しにくいので、ドアのノブに長さ一〇センチのステンレスで作った取手を、内も外も取り付け



読者の方から、「暮らしとのいい関係をつくっていく」ための工夫、ユニークなアイデアがたくさん寄せられました。

てあります。(ドアのノブに付ける取手は、市販されています)

2. 玄関について

入口、入った所に一〇センチの段差があったので、スロープを作りました。

3. トイレについて

和式トイレでしたので、その上に洋式トイレのユニットを上からかぶせ、その便座の高さまで床を持ち上げ、平らな状態にして、あぐら座りしながらでも、出来る様にしてあります。(便座と床の高さは、車椅子の座席の高さと、同じにしてあります)

水を流すのは、押しボタンにしてあります

す。トイレのドアですが、車椅子ですから開け閉めが大変で、それだけのスペースもないので、ドアを取り外し、カーテンレールを付け、カーテンで開け閉めしています。

4. 和室について

部屋の中でも車椅子なので、出来るだけ物を置かない様になっています。押し入れのフスマを取り外し、カーテンレールを上下に取り付け、それにカーテンを吊して開け閉めをしています。

押し入れの上段は、テレビ・ステレオなどを置き、下段は、押し入れ用のタンスや、掃除機・レコードラックなどが置いてあります。

出来るだけ、部屋を広く使おうとしています。寝るときは、ベットを使っていますが、市販のベットは、低く作ってあるので、車椅子の座席の高さまで、ベットの足に台を取り付け、高くしてあります。ベットの下の間も利用して、衣装箱などを入れています。

家の中では、物を置くと狭くなりますので、目立たない所に棚を取り付け、その上に置く様になっています。

それに、車椅子で動くと、どうしても畳が傷みますので、畳の上にクッションフロアーを敷いています。(両面テープで止めています)



切り換え電話も頭次第

おおさか行動する

障害者応援センター

時 田 和 明

ぼくんちの電話は、車イスの上から使えるように、書架の角を利用して、床面から三〇〇のところと、七五〇のところにも二基つけてあります。

下側の電話器を使って、足でダイヤルします。

「ぶるるるッ ぶるるるッ」

「ハイッ こちら・・・」

と、相手が出たところで、切り換えレバーを七五〇の方へスイッチ。

「ハイ デイシズ ときた」

「・・・」

切り換え電話を利用・応用して、ダイヤル用と送・受話用の二基を使いわけるアイデア、なかなかでしょ。



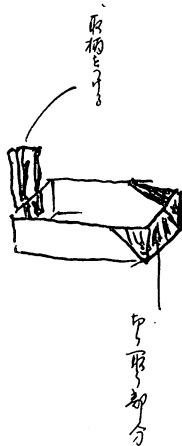
私の生活の知恵

小倉 寛 一

物のない時代には、日々の生活にも知恵を絞って物を考え出す。戦場では毎日の生活の十から十まで考えたものです。ところが、現代のように便利なものが出来て金さえ出せばどんな物でも有る時代です。

こんなつまらぬことを云えば、笑われるかも知りませんが・・・

1. 御中元や年末に貰った海苔や、ケーキ削り節の缶の中で、十五〇幅位の物があれば、図の様に金切り鋏で切って、昔の家の表の溝(巾が狭い)等、狭い溝のゴミ取りにすると便利です。ゴミを下水へ流すことは良くありません。



2. 家の庭などで、湿気の多い所にはナメクジがいると思います。そこへバナナの皮を置くと沢山のナメクジが集りますから、捕獲出来ます。夕方仕掛けて寝る前に取ることで、夜が明けると逃げます。

3. 盆栽に水をやり忘れてしおれて来た時鉢ごと水の中へつけます。もし、大きな入れ物のない場合は、木箱でもダンボールでも、その中へ大のゴミ入れビニール袋を入れて水を入れると、どんな鉢でも漬けることが出来ます。



いっちょ はき上がり

おおさか行動する

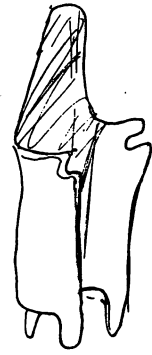
障害者応援センター

米玉利 祐 資

何年前か、アメリカ遊学を思い立った。

準備のひとつとして、英会話もはじめた。

同時に身のまわりのことにも注意をめぐらし、ひとつひとつ消去していった。最後にくつ下を自分ではくことが残った。アメリカ、くつ下、くつ下、アメリカと思ううち、しまいにアメリカがくつ下に見え出し



た。一心から思いついたのがこれ…。

ジャンボくつべらの両サイドをポテトチップのように湾曲させたもの。あるいは、園芸用スコップの柄を平べったくし、うんと幅広くし、両サイドの曲がり具合をスコップのよりもっと鋭角にしたもの。を想像いただくと、大体の形の輪郭はおわかりいただけると思います。

くつ下にこの器具を入れ、くつ下を筒状にします。こうして出来たくつ下の筒は器具が梁の役目をして、ペチャンコになりません。この空洞に足を入れ、器具をくつべらの要領で、抜きだせば、いっちょはき上がり。

くつ下の爪先が動いたり、ゴム編みの個所が滑り落ちないように、凹みや凸起の工夫がしてあるのがミソ。



必要は発明の母

日曜じんごろう (自称)

「すまいの工夫 いろいろ」考えてまんねん。というより、せざるをえんのです。

左ぎっちょようの人には、とかく使いにくいものが多いんです。ドアのノブ 冷蔵庫 テレビなどの道具類。街中にあるのは自動販売機 エレベーターのボタン…、ほとんどが右きりの人用に作られています。

そらあ多数決では、負けるさかい、しょうないけどね。しょうないとききらめられん不便なものに四六時中使う机がある。これも御多分にもれず右に、右へならえになっている。逆らっても無駄というもの。ならばと使い勝手のえ、ように左へ左へと柵をつくり、小物入れも特製した。実にいっちょ。なんといってもキワメツケはキャスター付き辞書機である。広辞苑やらなんじやら辞書類は重いので、持ち上げずとも引っぱるだけでコロコロと横へ来るように…。力がいらす重宝、と自我自賛している。

そのうちにボタンひとつで、「すぼら」という言葉がピュッと引けるものをつくるかも…な。

顔を讀む仕事



ぼくには以前からひそかにあこがれている職業がある。それは路傍にすわっている易者である。繁華街の片すみで重苦しいメガネをかけて、幾千もの人生を見つめてきたような皺(シワ)を頬にきざんだ易者さんが、なんだか怪しげな顔や手の描かれた垂れ幕を背に、流れる人ごみをじっと物思いに沈んだようすで見つめている姿に出会うと、ぼくは思わず「弟子にしてくださいな」と地に手をつけて頼みたいような気持ちにかられるのである。

もちろん、ぼくは目の下にホクロがあると悲恋に苦しむとか、手のなかの一本の筋が人生を決めるなどという理屈には全く興味はないし、そういうものを信じてもない。

実は、易者さんにとっては、そんなものは「方便」にすぎないと信じているのである。偉い易者さんになると、本当は人の顔を見ただけで運命がわかるにちがいない。しかし、顔をじろりと見ただけでは、あなたの運勢はどうのこうのと言うのでは、あなたの「信じがい」がないというものだし、実際それで料金を請求されては客の気持ちとしては騙(だま)されたような感じさえするのである。

おそらく、金銭運にしても「ある」とい

う「証拠」と、「ない」という「証拠」にはいくつもの種類があつて、易者さんは相手の顔や様子を見て、金銭運がないと思えば「ない」という「証拠」を、あると思えば「ある」という「証拠」を示して見せるのだらう(ぼくの全くの想像なのだが)。

というのも、ぼくは人の顔や様子には、その人の人間そのものが完全に出てしまうものだと信じている。顔は、そういう意味で恐ろしい。「いや、私は顔には(気持ちなどが)出ないよ」という人がいるが、そんな人の顔にこそ、窮屈だった家庭の歴史などがまざまざと出てしまっているような気がするのである。

ぼくは乳幼児の顔はあまり見たことがないのでよくわからないが、二、三歳の子供になると、もうすでに顔にすべてが出てしまっていると思う。小さな子供の顔を見ているだけで、両親の関係や両親の育った家庭環境さえも見えてきそうな気がしてならない。

ある企業の人事部長と話したことがあるのだが、新入社員をどこで選ぶかという時、顔で選ぶそうだ。企業に入ってからという人は、そういう顔をしているという。人事部にはいった社員はまず、そういう顔の見方を徹底的に仕込まれる。目がどうか、鼻がどうかということではない。一人一人を見ていって、「あれはいい顔をしているのだらう」「あれはダメだらう」と話し合い教えていく。それを何年も続けていくと、その会社が求める「顔」というのがわかってくるそうである。

顔を一目見ただけで人を判断するなんて・・・と思う人もいるかもしれないが、それはぼくたちが日常やっていることだし、商売も含めて人との係わりで仕事をしている人にとっては、それは決定的に重要な仕事のひとつだと思ふ。たくさんの人を相手に仕事をする場合、相手の顔を見て一瞬にして相手を感じて、相手に合わせてこちらの対応を変えていくことが求められるからである。

ぼくは教員だが、ぼくの仕事においても顔を見ることはとても大切なことだ。ぼくにだって、人並みにだが、人の顔を見ただけでいろんなことがなんとなくわかる。しかし、それは「なんとなく」であつて、ひどく曖昧(あいまい)にしかわからない。相手の顔から読み取ったことが当たっているのか、はずれているのか確かめることが難しいから、顔を讀み取る「技能」がいつまでたつても進歩しない。

だからこそ易者さんにあこがれるのである。顔を見て思ったことを言えば、当たっているかどうか客が教えてくれるはずである。ああ、お客さんは最高の教師だ！

夏は蚊に食われ、冬は北風に震え、毎夜酔っぱらいにからまれ、ヤクザにおどかされようと、易者さんの目には、ひとりひとりの通行人の人生は小宇宙のように輝き流れているにちがいない。それを思うといまの職が定年になつたら、一度はあんなふうに神妙な顔をして、雑踏の片すみで見知らぬ人と肩を寄せあつて、人間の運命について語りあつてみたいと思うのだ。(知)

親愛なるサロンの皆様

お手紙 大変ありがとうございます。

こんなに早く返事がくることを予想して
いませんでした。でも、大変うれしかった。
あなたがタイプライターを打ったように
私も、それを真似たので最初の手紙より読
みやすいことを望んでいます。

私のグループについて少し触れましたが
英語で話すか、書くか他の方法がありません。
しかし、すべてのメンバーについて書
くのが望みです。

私たちのグループは、十人の男性と六人
の女性からなっていますが、興味を持って
いる人々にも開かれています。時々の関係
は、重度のハンディキャップを持つメンバ
ーに同行します。平均年齢は五十才です。

私は、最も若いメンバーです。私は二八
才です。さらに、専門家が二人います。女
の体育の先生と、男のソシアルワーカーで
す。ふつう ミーティングは、一週間に一
回開きます。私たちのミーティングルーム
は、学校の休みの間は閉められますので、
二月から七月までと、九月から一二月まで
の間だけ会うことができます。



Brigitte Ehrenberg
Duererstr. 1
4750 Unna
West-Germany

Mrs. Keiko Tomita
6-3-26, Hannan-cho 6 chome
Abeno-ku, Osaka City
545 Japan

May 3rd 1988

Dear Mrs. Tomita,

Thank you very much for your letter. I can understand it very well. I don't expect your response so quickly, but I am very glad about it. Your idea to write the letter with a Type-machine I am copying, so I hope you can read it better than the first letter. I have told about our contact to my group, but there is no one else who can speak or write English. But all members send the best wishes to your group.

In the moment we are a group of 16 persons, 10 women and 6 men, but we are open for any other interesting people. Often relatives are accompanying our very handicapped group-Members (the most use crutches and cannot drive a car). The middle age is about 50 years. I am the youngest group-member. I am 28 years. Additionally there are two professionals, a female teacher of gymnastics and a male social-worker.

Normally we are meeting once a week, but our meeting-room is closed during school-holidays, so that we can only meet from February to July and from September to December.

In the beginning of each meeting we make gymnastics and then we speak about problems. Once a month we drink coffee and eat cake. Tomorrow I will visit a group-member in hospital, because she has gotten a new stroke again.

Next week we will make a trip to "Bad Sassendorf", that's a little town with a hot fountain. Here we want to swim in salt-water which should be very good for our muscles. It's the first time I will participate in such an action and I am very curious. I will write about my experiences in my next letter.

I hope you have gotten a little view of our group-life and I would enjoy to learn something about your activities. With the best wishes for you and your group

Yours Brigitte Ehrenberg

それぞれのミーティングは、体操をして
それから問題点について話し合います。

月に一度、私たちはコーヒーを飲み、ケ
ーキを食べます。

明日、私は、病院に入院しているグルー
プのメンバーをたずねます。なぜなら、彼
女は再び発作をおこしたから。

次の週、私たちはドルフド・サセンに旅
行します。そこは、温泉のある小さな街で
す。そこで、私たちの体に非常によいとい

う塩水で泳ぎたいと思います。

私は、こういう行動に初めて参加します。

そして、大へん楽しみにしています。

次の手紙で私の体験を書きましょう。

あなたがたが、私たちのグループの生活
の全体像を得ることができればと思います。
そちらの活動について、何か学ぶことを
楽しみにしましょう。

あなたのグループに最高の希望がありま
すように。ブリギッテより

旭 純 子



手話通訳をめぐる問題点 (二)

手話奉仕員の養成および派遣事業は、大阪府の場合、ろう団体の大阪聴力障害者協会（大聴協）に委託されている。この協会は、昭和五七年、「大阪ろう

あ協会」、「大阪市聴言障害者協会」、「ろう者の生活と権利を守る会」のそれぞれの団体の独自性と名称を残しながら、全体的に体系化された団体で、大阪のろう運動、対策を通じて重要な役割を担っている。しかし、都道府県、市町村によって委託団体は様々でろう団体以外の身障団体などに委託された場合、ろうあ者不在の事業になる恐れもあり、ろうあ者の要求に対応できなくなることもある。

次に手話通訳奉仕員の登録に関して大阪府下では一五市が派遣事業を実施しているが、登録方法、委託団体、通訳ニーズへの対応が一定でなく、自治体間格差が大きい。これは各都道府県に関しても同様であり、事業に関するきめ細かい規定を欠いているため、事業の実施方法などは各自治体の判断に任されるので、事業内容の統一性、一定性に欠けている。また、奉仕員は個人ボランティア活動となるので、社会人の場合、仕事などの理由で通訳ニーズの多い昼間に活動できる奉仕員が少なく、登録者数に比べて活動者数は非常に少数となり、絶対者数が不足な

め、ろうあ者の通訳ニーズに十分対応できない。

ところでこういった事業の費用についてであるが大阪の場合、さきの「大聴協」が実施している登録通訳者派遣事業に対して、府から年間百六十万円の事務費が出るに過ぎず、市からの事務費はゼロである。このように事業に対して十分な費用が得られず、事業内容の不備に結びつくことが多い。

費用等の問題の他、奉仕員に十分な研修の機会が与えられていないということがあげられる。筆者も経験することではあるが、通訳の現場でろうあ者から、通訳技術に関して評価や助言を得ることが出来ずに、通訳者がとまどってしまったり、また、通訳現場で遭遇する様々な問題点を通訳者同士で話し合ったり、解決方法に付いて指導を受けたりする機会を得られずに、対象者となつたろうあ者の問題を一人で抱え込んで悩むということがある。技術的な面においても、実践的な技術研修の場がほとんどなく、通訳現場が通訳者にとって技術研修の場となつてしまふ傾向もあるように思う。



私が普段、乗っている電動車イスの速さは、時速四・五キロの速さのものです。街でみかけるのも、大体このくらいの速さです。ところが、こんどの国体出場のために練習しているのは、六キロの速さのもので

す。スラローム所定の距離を走るのに四・五キロのもので五三秒前後かかるのに、六キロのものですと四三秒ぐらいで、その差十秒もあるのです。これで四・五と六の速さがどれだけ違うか、おわかりいただけると思います。

この速度に体を慣らす練習というか、適応性を養うことが大変でした。たとえば、ポールにブツからないように走る、S字走行のとき、車体は右へカーブをきって進むのに、体は左に残り、人・車一体になって

のリズミカルな走りが出来ないのです。人・車一体の走行が、タイムに大いに影響するのです。この練習が大変でしたが、なんとか実り、四・五が私の体の一部になっていくように、いまや六も同様に、人・車一体の走りが出来るようになりました。

今は、一メートル五〇センチの枠内を、枠線を踏まずに、ペナルティーなしで、いかに速くターンするか、あるいは、ポールに触れないで、S字走行するか、など、テクニク面の練習に入っています。(談)

『篤ちゃん ガンバレ!』

穂谷終一

山本篤江さんが京都国体に大阪市代表として出場されることを聞き、同じサロン・あべので顔を向き合わせてきた者同志として、とても喜ばしい気持ちです。

本当におめでとう!

なにしろ、大阪市は東京都の次に国体出場が難しい街だと聞いているだけに、京都国体に出場されることは、とても栄誉あることだと思います。

山本さんには、大阪市の代表選手としての誇を持ち、大会が終るまで気をゆるめることなく頑張っただけの気持ちです。

選手を選ぶ基準の一つに、メダルを一つでも確保できる可能性のある人というのがあるそうです。山本さんはその中に入っているのですからとても有望です。しかし、油断は禁物。

健常者が国体に出場するほどの練習は出来なくても、自分の心に悔いを残さないように常に、練習する努力だけは持って下さい。

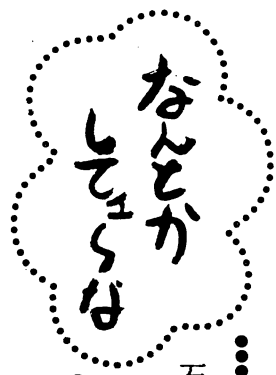
大阪府の細川団長は、昨年の私達選手に

「君達の国体出場費用の全ては、府民の税金でまかなわれています。それを無駄にしない為にも全力を尽くして欲しい」とよく言われていました。そして、私はその意に応えようと努力し、何とか金と銀を手にすることができたのです。

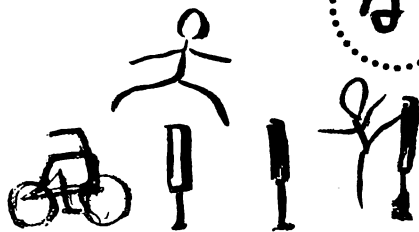
山本さんも大会終了までは、自分との戦いだと思いき一杯頑張ってください。

そして、私達にあの金色に輝く金メダルを堂々と見せて欲しい。

最後に、川篤ちゃん ガンバレ!と声を大にして、サロン・あべのの皆さんなど応援しています。



石田 律



前号で、地下鉄西田辺駅周辺の駐輪のモラルのなさを、指摘されていた。

★★★ボランティアのつどい

「車イス介助の講習(在宅編)」

七月二三日(土)育徳コミュニティセンター研修室において、阿倍野保健所より在宅老人介護訪問指導員の保健婦さんを迎えて、あべのボランティア・ビューローの主催で開催された。

前回に引き続いての「車イス介助の講習」であったが、在宅編ということで、老人介

くどいようだが、あえてもういちど。

バス停「地下鉄・西田辺」駅(三明町一丁目)は、あびこ筋西側の駐輪場のほぼ中央にある。歩道から車道、つまりバスに乗るところまで、駐輪場を横切って、通り路が設けられてある。当り前のことながら、この道へは自転車など、一切ものを、置いてはならない。ところが、前に商店が並ぶこともあって、買い物をする間、少しの間だけ置くチョイの間組も加わって、いつも満輪。停留所へのわずかな道のりも、障害物競争よろしく、自転車をかきわけ、押しつけ、やっとの思いでゴールにたどりつく始末。障害者の障害物競争、まったくシヤレにもなりません。

護を主に話が進められた。

訪問指導員は、月一回の訪問に際してはまず、介護者へリいたわりとねぎらいの気持ちを言葉に込めて接し、介護者の孤独感やストレスを受け止める。次に対象者に対しては、詳細に観察しつつ寝たきりを特別視せず、甘えさせず、その人の自立心をくすぐるように仕向けるといふ。

今の介護者は、昔なら世話をされている

おしらせ

△サロン・あべのV九月の出会い

日時 昭和六三年九月二七日(土)

午後一時～四時

場所 育徳コミュニティセンター二階

研修室(スロープ・車イストイレ有)

内容 「私の歩いてきた道」

(手話通訳有り)

会費なし(カンパ大歓迎)

問い合わせ先 ☎〇六一六九一一〇二八畠田

Decorative box containing text: 日々のよろこび添えて △サロン・あべのVに贈るリ灯リ 七月のカンパ合計 九〇〇〇円 ありがとうございます。

年代（五〇〜七〇才）でありながら、介護をしなければならぬ処に問題があり、その手伝いが出るボランティアの必要性はとても大きい、等々の話の後、半身マヒの寝たきり老人のリ寝がえりのさせ方、抱き起し方、ベッドから車イスへの移動リ等々の実習があった。

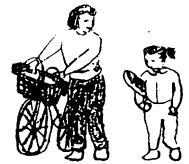
サロン・あべのからは、七名（石田、上平、冨田、中西、原田、山本、丸山）が参加した。

★★★ボランティアのつどい

「車輪の一步」

八月二〇日（土）午後一時三〇分〜四時 育徳コミュニティセンター研修室において、「車輪の一步」の映画観賞会が、あべのボランティア・ビューロー主催で開催された。

六人の車イス障害者の若者と一人の車イス障害者の娘さんとの交流を中心にして、車イス障害者の個人的悩みや、社会が持っている様々な障害を背景に展開していく話。仕事のこと、住いのこと、交通事情、レ



編集後記

「すまいの工夫 いろいろ」で、浴室・トイレなどの衛生空間にくらべて台所のことあまり話に出なかったのは、それは、たとえば衛生関係の設備についていえば、入浴や排泄といったことは、どんな障害者も避けられない問題であり、またそのために必要となる介護者の負担の軽減といった問題も切実であると思われる。ところが台所での作業はほとんどの場合「主婦」という立場にある人に限られ、その作業の内容も健全者が代行できるものである。そのため、よほど差し迫った場合でもなければ、改良することによって作業可能な障害者であっても、台所を使うことをあきらめてしまう場合が多いのでは…。

作業をしないから改良の必要性を切実なものと感じないのかもしれない。（石）
お茶受けを小川・金子様よりいただきました。ありがとうございました。

ジャー、親子の関係等々、自我を押えて生きてきた障害者が、知りあった健常者の温かい理解と支援を得て、社会にかける最低限度の迷惑は、当人達にとって必要であれば、容認出来るのではないかと考えた。
これを基本理念にした彼らは、明るい笑顔で街に出ていくことが出来るようになった。映画観賞の後、久し振りに参加下さった岡氏を囲んで、感想を話しあった。
サロン・あべのからは、六名（旭、石田上平、岡、冨田、原田）が参加した。

<サロン・あべの>第26号

発行日 昭和63年 8月28日（日）
発行・編集<サロン・あべの>運営委員会
[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26
電話(06)691-1028冨田慶子]
印刷 セルフ社 電話(06)652-0337
[阿倍野区阿倍野筋4-18-19]
定価 ￥60.